

1 単元名 4年*組ブックサークルをしよう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、単元を貫く言語活動として、「新美南吉作品を読んで考えたことを友達と意見交流するブックサークルを行う」ことを位置付けた。ブックサークルは、児童が物語を読んで考えたことを叙述を基に自身の体験も踏まえながらまとめ、話題に沿ってグループで話し合う活動である。ブックサークルを行うためには、登場人物の気持ちの変化を読み取る必要がある。本単元の学習を通して、児童は目的意識をもって叙述を基に自分の言葉で読んだことをまとめることができ、また、互いの意見を尊重し合って学び合い、自らや集団の考えを発展させることができるようになる。したがって、本単元でねらう「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」(C読むことウ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

前単元である「走れ」では、「中心人物の気持ちの変化を読む」ことを目標とした教材で、そこでは中心人物の気持ちがどこでどのように変化したのか、どうしてその変化が起きたのかを正しく読むことができた児童が約半数であった。そこで、本学級の児童に対して、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について叙述を基に想像して読むことについて実態調査(平成*年*月*日実施,第4学年*組*人,全5問)を行ったところ、情景を読む問題全4問のうち全てできた児童は*人、2問以下の児童は*人であった。心情を読む問題ができた児童は*人であった。この結果から本学級の児童は、文学的文章を読み、人物や情景の描写などの表現の細かい点を読んだり、叙述を基に登場人物の性格や状況を把握し、変化する気持ちについて行動や会話などから関連的に捉えたりすることに課題があることが分かった。これは、これまでの文学的文章を読む学習指導が、目的を明確にせず、段落ごとに物語を読む活動に偏ってしまい、豊かに情景を想像したり、人物の気持ちを考えたりする力を育てるための手立てが不足していたことに起因していると考えられる。

(2) 教材観

本教材は、独りぼっちな小ぎつねのごんが、同じく独りぼっちななってしまった兵十と心を通わせようと努力しながらも、通わせきれない切なさを描いた作品である。主人公の言動と情景の描写、細やかで素朴な語り口の心理描写がされており、物語の設定(時・場・登場人物)が捉えやすく、発端・クライマックス・結末などの構造もはっきりしている。そのため、場面と場面を結び付けながら、ほかの人物との関わりを通して変化していく中心となる人物の気持ちを読む力を育てるのに適した教材である。

(3) 指導観

本単元では、学習指導要領の「C読むこと」(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」を受けて、情景を想像したり、物語の中心となる人物の心情を考えたりしながら読むことをねらいとしている。そのために、互いの意見を交流し自分の読みを深める「4年*組ブックサークルをしよう」を単元を貫く言語活動として位置付け、「ごんぎつね」を学習する。具体的には、まず、第一次として、「4年*組ブックサークル」で「ごんぎつね」や新美南吉作品を読んで考えたことを話題に沿って話し合うことを確認し、学習の目的と見通しをもたせる。第二次として、「ごんぎつね」を登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読む。そして、考えたことを「ごんぎつねブック」にまとめ、意見交流を行う。最後に、第三次として、同じ新美南吉作品を読んだグループで話し合いたい話題を設定し、「4年*組ブックサークル」を行う。ブックサークル後には、振り返りを行い、友達のと違いや共通点について考え、自分の読みを広げたり、深めたりできるようにしていく。

4 単元の目標

- 物語を読むことやブックサークルに興味をもち、好きなところや心がひかれるところに着目しながら意見交流をしようとする。(関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。(読むこと)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 物語を読むことやブックサークルに興味をもち、好きなどころや心がひかれるところに着目しながら意見交流をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 ブックサークルを通して、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。

6 単元の指導計画（13時間扱い）

次	時	主な学習活動	主な評価	並行読書
一	1	新美南吉作品について知り、「4年*組ブックサークルをしよう」をするための学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 新美南吉作品を読み、「4年*組ブックサークルをしよう」をすることに興味をもとうとしている。（国語への関心・意欲・態度） 	読み聞かせを聞く ↓
	2	「ごんぎつね」を読み、初発の感想を発表し合い、学習課題と学習計画について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって物語を読み、好きなどころや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。（国語への関心・意欲・態度） 互いの発表を聞き、意欲的に学習課題を見出そうとしている。（国語への関心・意欲・態度） 	自分の本を選んで読む ↓
二	3	「ごんぎつね」を読んで、物語の設定や構造を「お話の図」に書き、あらすじをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 物語の設定や構造を叙述から読み、あらすじを「お話の図」にまとめている。（読む能力） 	「お話の図」を書く ↓
	4	いたずらばかりするごん、いたずらをしたことを後悔するごん、兵十につぐないをするごん、兵十の話を聞いて引き合わないと思ったごんの行動や気持ちの変化を想像しながら物語を読み、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 叙述を基にごんの境遇や行動、気持ちの変化を想像しながら読んでいる。（読む能力） 	↓
	5	兵十に撃たれたごんの気持ちや、ごんを撃ってしまった兵十の気持ちを想像しながら読み、互いの関係の変化について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ごんと兵十との関わりを捉え、ごんや兵十の気持ちの変化を叙述を基に想像しながら読んでいる。（読む能力） 	↓
	6	物語全体を振り返り、グループごとに話し合いたい話題を決め、自分の考えをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。（言語についての知識・理解・態度） 	登場人物の気持ちの変化を読む。 ↓
	7	物語全体を振り返り、考えたことを「ごんぎつねブックサークル」で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ごんや兵十の気持ちについて叙述や自分の体験を例や理由に挙げて自分が考えたことを表現している。（読む能力） ブックサークルを通して、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。（読む能力） 	話し合いたい話題を考える ↓
	8	同じ新美南吉作品を読んだグループごとに話し合う話題を決め、「4年*組ブックサークル」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ブックサークルを通して、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。（読む能力） 	話題を決め、ブックサークルをする
	9	同じ新美南吉作品を読んだグループごとに話し合う話題を決め、「4年*組ブックサークル」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 物語の設定、登場人物の性格、気持ちの変化を叙述を基に想像して読んでいる。（読む能力） 物語を読んで感じたことを叙述や自分の体験を例や理由に挙げて表現している。（読む能力） ブックサークルを通して、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。（読む能力） 	

7 本時の学習

(1) 目標 ごんや兵十の気持ちについて叙述や自分の体験を基にして考えたことを話し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。

(2) 準備・資料

- ごんぎつねブック
- ブックサークルの手順シート
- 班ごとの話題カードと報告カード
- 役割カード
- 意見ヒントカード
- 感想ヒントカード

(3)展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の課題を確認する。 「ごんぎつね」を読んで考えたことをブックサークルで交流しよう。	・学習計画表を基に確認することで、学習の見通しがもてるようにする。
2 ブックサークルの手順の確認をする。 ①話題をたしかめる ②自分の考えとその理由を話す (作品に書いてあることから) ・□の場面の「○○」という文から… (自分の体験をふまえて話す) ・もし私がごんだったら… (前につなげて話す) ・○○さんと同じで… ・○○さんとは違って… ・○○さんの意見を聞いて私も… ③多く出た考えを中心にまとめる ④報告する	・ブックサークルの手順を声に出して読むことで共通理解を図る。 ・意見ヒントカードを使い、叙述を基にして自分の考えをまとめられるように助言する。 ・意見ヒントカードを使い、自分の体験を踏まえて話すことを意識させ、物語の世界をより具体的に想像できるようにする。 ・意見ヒントカードを使い、話題に沿って考えをつなげて話すことを意識させることで、友達の意見を参考にして自分の意見を深めていけるようにする。 ・最後に、グループの意見をまとめて報告することを伝え、互いの意見をよく聞き合っってブックサークルを進行できるよう助言する。
3 各グループの話題を確認する。 4 グループ毎に話題に沿って意見交流を行う。	・話題を黒板に掲示して確認できるようにする。 ・前時にワークシートに話題に対する自分の意見を記入させておき、自信をもって話合いに臨めるようにする。
・今日の話題は「なぜ最後の場面が心に残るか」です。 ・私はごんが兵十にうたれてしまっていて悲しくなるからだと思います。「ごんは、…うなずきました。」というところは何度読んでも心にひびきます。 ・ぼくも○○さんと同じところが心に残りました。理由は兵十が、ごんのつぐないのことを分かってくれたからです。 ・私は、ごんのやさしさが伝わってくるからだと思います。「引き合わないなあ」と思ったのに、また栗を届けるごんは本当にやさしいと思いました。私にはできないなと思いました。	☞ごんや兵十の気持ちについて叙述や自分の体験を基にして考えたことを話し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。(観察・ワークシート) ・意見を発表したら、理由を必ず述べるように助言する。 ・司会役の進行により、全員が積極的に意見を発表できるようにする。 ・感想が「悲しかった」「すごかった」などの言葉だけに留まらず、十分に自分の思いを伝えることができるよう、感想語彙を掲示するとともに、前時に書いた意見シートを活用して発表できるように助言する。 ・話合いが停滞しているグループには、どこを根拠に考えたか問い、叙述に基づいて話合いができるようにする。
5 グループの意見をまとめ、報告する。 6 ブックサークルを通して、深まった考えをワークシートに記入し、発表する。	・グループの意見を全体の場で報告させることで一人一人の考え方の違いに気付かせるようにする。
・ブックサークル前はごんはかわいそうだしか思っていなかったけれど、○○さんの意見を聞いて、ごんは兵十に気付いてもらえてうれしかったのではないかと思います。 ・グループで話し合ってみると、一人一人の考え方が違うと思いました。	・ブックサークルを振り返ることで事前と事後の読みの変化に気付くことが出来るようにする。 ・考えが書けない児童には、例文を示し、友達と意見を交流して、広がったり、深まったりした考えを書くように助言する。
7 並行読書を行い、話し合いたい話題を考える。 ・心に残った場面について話し合いたいな。 ・中心となる人物の性格について話し合いたいな。	・次時には、新美南吉作品でブックサークルをするための準備を行うことを伝え、話し合いたい話題を考えるよう助言する。
8 本時の振り返りと次時の確認をする。	・学習計画表の一言感想に分かったことや次時への期待を入れ、次時の学習内容の確認をする。

